

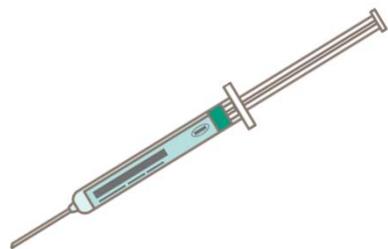
新しい研究的な治療「自己血中細胞移植治療」とは？

新しい研究的な治療法「自己血中細胞移植治療」とは、「将来血管になったり、血管発生を促す可能性がある細胞」を集め、足の病変部の筋肉に注射することにより、血流を改善させ、患者さんの症状を軽減させることを目標とした治療で、その有用性に期待が寄せられています。

自己血中細胞移植治療の流れ

入院1日目から4日目

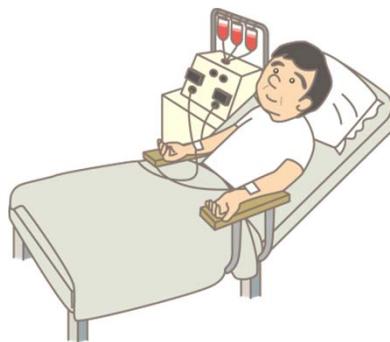
お薬で血液中の細胞を増やします。



「将来血管になったり、血管発生を促す可能性がある細胞」は、通常は骨髄にたくさんあり、血液中にはごく少数しか存在しません。そこで、治療に必要な数の細胞を患者さんの血液から得るために、骨髄にある細胞を血液中に送り出す効果のある薬（顆粒球増殖因子製剤； G-CSF製剤）を1日1回、4日間皮下注射します。

入院4日目（5日目）

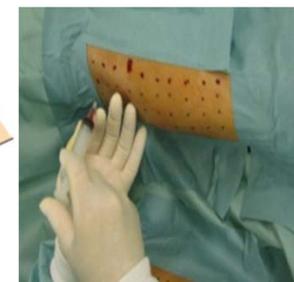
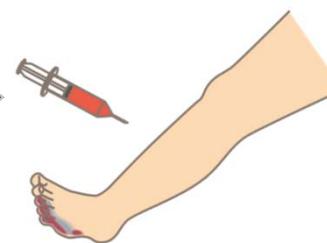
ご自身の細胞を採取します。



注射終了後に患者さんの静脈から血液中の必要な成分を血液成分分離装置という機械を使って採りだします。この装置で、単核球という成分をとりだし、それ以外の大部分の血液成分を患者さんのからだに戻します。他の種類の細胞も含まれていますが、「将来血管になったり、血管発生を促す可能性がある細胞」が多く含まれています。

入院4日目（5日目）

採取した細胞を移植します。



採取した細胞を下肢の筋肉内に注射します。細胞を筋肉に注入する際は、下肢の筋肉に細い針で注射いたしますので、痛みを和らげるために麻酔等を行います。細胞移植後、数日で退院となります。